

ソフト男子西日本L 来月1日から最終節

平林金属ク逆転V狙う

攻撃陣の奮起が鍵に

ソフトボール男子の西日本リーグは11月1、2日に最終節を迎え、平林金属クは尾道市の御調球場で残る3試合に臨む。現在10勝3敗の2位につけ、前節までに東西両リーグの上位各4チームによる決勝トーナメント(同15、16日・愛知県豊田市)進出が決定。2年

ぶりの西日本制覇へ、負けない戦いとなる。1位大阪桃次郎は4試合を残し11勝1敗。直接対決で2戦2敗している平林金属クが優勝するには3連勝した上で、大阪桃次郎が1勝3敗か4連敗する条件しかない。圧倒的に不利だが、下位との対戦が続く平林金属クに対し、ライバルは上位勢との連戦。「最後まで何が起るか分からない」と主将木谷は執念を燃やす。

勢いはある。平林金属ク主体で臨んだ先の長崎国体は、岡山の成年男子として19年ぶりの準優勝。エース松田が2回戦、準決勝と連続完封し、宮崎との決勝も延長10回を完投。念願のタイトルにはあと一歩届かなかったが、堅い守備と土壇場の粘りは見事だった。逆転優勝なるかは攻撃陣の奮起が鍵を握る。松本、河合ら4人が打率3割を超え、松田はリーグトップの9本塁打。1試



長崎国体ソフトボール成年男子決勝で、同点2ランを放つ平林金属クの小見山＝20日、ときつ海と緑の運動公園

(同勝敗の順位は直接対決の成績などによる)

順位	勝	敗
1	3	5
2	5	7
3	7	7
4	7	9
5	12	12
6	13	13
7	13	13
8	13	12
9	12	12
10	12	12
11	10	8
12	8	6
13	5	5
14	3	0

順位	勝	敗
1	3	5
2	5	7
3	7	7
4	7	9
5	12	12
6	13	13
7	13	13
8	13	12
9	12	12
10	12	12
11	10	8
12	8	6
13	5	5
14	3	0

◇西日本リーグ

合平均5・7得点(リーグ2位)を誇る打線で今、最も頼れるのが主砲の小見山だ。ここまで5本塁打(同4位)を放ち、国体決勝では2点を追う4回、右中間最深部へ同点2ラン。3番松田が抑えられても「俺が打つ」と意気込む勝負強い打棒は相手にとって脅威だろう。

リーグ制覇となれば、決勝トーナメントへ大きな弾みになる。吉村監督は「足元を固め、こつこつ勝利を積み上げたい」と頂点を見据える。

(村上達也)